

# 中部・南部学校給食センター完成



調理室

▼中部給食センターは、豊科と明科地域の小中学校7校(約2,600食)を提供します。



▲南部給食センターは、三郷と豊科地域の一部の小中学校3校(約3,000食)を提供します。



コンテナプール(天吊式消毒保管システム採用)

安曇野市中部学校給食センター(豊科南穂高と南部学校給食センター(三郷明盛)のしゅん工式が7月25日に行われました。

中部給食センターは、豊科北小学校北側に、南部給食センターは、三郷小学校南側にそれぞれ完成しました。両学校給食センターは、フルドライシステムを導入し、衛生管理の充実、調理工程の効率化を図り、太陽光発電を利用するなど環境にも配慮しています。また、アレルギー対応食(30食)専用の調理室もあります。

式には、平林市長をはじめ学校・工事関係者など約70人が参加して、完成を祝いました。平林市長は「子どもたちに安全でおいしい給食を提供できる給食センターができた。給食の提供だけでなく、家庭との連携を取りながら、食育の情報発信の場となるように運営していきたい」とあいさつしました。

## 安曇野・松本・東信地区を結ぶ

# 国道147号高家バイパス開通

あづみの産業団地東にアルプス大橋が完成し、全長4.2キロの「国道147号高家バイパス」が全線開通しました。7月25日には、開通式を祝う式典と渡り初めが行われ、安曇野市、松本市の両市民など500人以上が参加しました。

開通式には、菅谷松本市長、村井長野県知事、国会議員、県議会議員をはじめ、地元区長など関係者が出席し、このバイパスの建設促進期成同盟会の会長である平林市長は、「何より地元皆さん、地権者の皆さんに感謝したい。147号線の渋滞緩和と松本市、安曇野市がより一体となって中信地域が活性化していくことを期待している」とあいさつしました。

引き続き行われた開通セレモニーでは、テープカットや、両市の園児が参加したくす球割りの後、松本広域消防音楽隊を先頭に、両市の3組の三世代夫婦や参加の皆さんが渡り初めをしました。



### 3世代家族として 渡り初めに参加した中島さん

暫定の2車線ではありますが、これですべて開通したのは大変うれしく思います。これをきっかけにあづみ野産業団地はもちろんこの地域がより発展してほしいと思います。



よしさと  
中島 美郷 さん  
(豊科高家)

## 長野自動車道 梓川サービスエリア スマートインターチェンジの導入に向けて研究会を設立

安曇野市と松本市にある長野自動車道の梓川サービスエリア(SA)にノンストップ料金收受システム(ETC)専用のスマートインターチェンジ(IC)の設置を目指す「梓川SAスマートIC社会実験研究会」の設立総会が7月12日、安曇野市や松本市、長野国道事務所などの関係者が出席して開かれました。

研究会では、スマートICの設置場所や利用時間、通行可能な車種、安全性のほか、その効果や課題を検証し、社会実験に向けた基礎資料を収集するほか、来年度の実験の開始を目指し、年内に実施計画を策定する予定です。



平林市長は「しっかりとした調査に基づいた検討を行い、地に足のついた成果を上げていきたい」とあいさつしました。

## 8月1日~10日 夏休み明けの本格稼働に向けて 新給食センターで調理員の研修が行われました

最新のシステムなどが導入された中部学校給食センターと南部学校給食センターでは、夏休み明けの子どもたちへの給食の提供をスムーズに行うため、調理を担当する職員の研修会を8月1日~10日まで行いました。

中部学校給食センターの研修では、身支度や手洗いなどの衛生管理や調理器具の使い方の説明を受け、実際に調理をして確認をしました。また、7日には、本格稼働する20日の献立である手づくりハンバーグやわかめスープなどを作りました。

中部給食センターは8月20日、南部学校給食センターは8月21日からそれぞれ本格稼働し、子どもたちに給食を届けています。



研修最終日には、夏休み明け最初の給食メニューの調理を行った。